

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	心理学概論B(Introduction to Psychology B)		授業コード	K003651
担当教員名	高橋 淳一郎		科目ナンバリングコード	K10502
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	前期の「心理学概論A」の続きとなります。			
受講心得	遅刻、無断外室、おしゃべり、携帯電話の使用など、他の学生に迷惑となる行為は禁止です。大学生として最低限のモラルを守って履修してください。			
教科書	教科書: はじめて出会う 心理学 長谷川寿一 他 著 有斐閣アルマ			
参考文献及び指定図書				
関連科目	心理学概論A、青年心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神保健学			

授業の目的	心理学的な知識は、子どもの健全育成はもとより大人も社会の中でよりよく生きていくための重要な示唆を与えてくれます。また、教員としての実践的なことを学ぶ時の大きな手助けとなる知識を身につけることができるでしょう。授業は基本的には講義形式ですが、心理学を身近に感じ、そのおもしろさを実感してもらうため、一部で演習形式の基礎実験的な内容を取り入れる予定です。
授業の概要	

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週: オリエンテーション</b> 授業の流れと評価方法について説明します。	
<b>第2週: 感覚</b> 人間の感覚の成立と伝達経路、それらに関連する臨床的な問題について学びます。	テキストp161~p176 リアクションペーパー提出
<b>第3週: 知覚</b> 人間がどのように外界を捉え、それを自分の中で処理していくのか説明していきます。第2週の「感覚」と並んで、軽度発達障害とも大きな関わりのある分野です。	テキストp177~p192 リアクションペーパー提出
<b>第4週: 演習1</b> 感覚や知覚に関係した心理学実験をおこないます。	演習課題 リアクションペーパー提出
<b>第5週: 記憶</b> 人間の記憶システムについて学びます。	テキストp193~p208 リアクションペーパー提出
<b>第6週: 演習2</b> 記憶に関係した心理学実験をおこないます。	演習課題 リアクションペーパー提出
<b>第7週: 学習</b> 一般的に言われる学習と心理学用語としての「学習」はちょっと違います。ここでは人間をはじめとした動物が行動を身につけていく過程について学びます。	テキストp209~p230 リアクションペーパー提出
<b>第8週: 思考</b> 授業はもちろんですが、人間はいつも何かしらの思考をめぐらしながら生活を送っています。ここでは問題解決を中心とした思考のあり方について解説します。	テキストp231~p248 リアクションペーパー提出
<b>第9週: 演習3</b> 思考に関係した心理学実験をおこないます。	演習課題 リアクションペーパー提出
<b>第10週: 脳と心1</b>	

ここでは脳の働きと心の働きの関係について学んでいきます。	テキストp249～p262 リアクションペーパー提出
<b>第11週：脳と心2</b> 第10週と同様に脳の働きと心の働きに関連について学んでいきます。	テキストp262～p268 リアクションペーパー提出
<b>第12週：脳損傷</b> そもそも人間の体は脳によって司られています。その脳になんらかの障害が起こったとき、人はどのようになるのか、臨床的な立場から解説してきます。	テキストp269～p286 リアクションペーパー提出
<b>第13週：社会の中の人</b> 毎日の生活の中で、他者とかかわりを持たない日はとても少ないと思います。「社会的動物」としての人間が他者の中で生きていくとはどのようなことか、他者にどのような影響を与え、また与えられているのか考えていきます。	テキストp287～p302 リアクションペーパー提出
<b>第14週：心と社会</b> 社会の中で生きていくということが、自分の心の安定とどのような関係にあるのか、社会心理学そして臨床心理学の立場から考えていきます。	テキストp303～p322 リアクションペーパー提出
<b>第15週：演習4</b> 第13週・第14週を踏まえて、社会心理学的な実験をおこないます。	演習課題 リアクションペーパー提出
<b>第16週：期末試験</b> これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。	
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式 「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式
	(3) アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
<b>備考</b>	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①教職を目指す者として心理学が教職にどのようなつながりがあるのか理解できる
<b>【知識・理解】</b>	②人間がどのように外界の情報を自分の中に取り入れているのか理解できる。 ③脳の働きと心の関係について理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	④知識を応用した演習に積極的に参加し、理解を深めることができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤人間関係における基本的な心理学的トピックスを説明できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点	5点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他(無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。